事例No.	2756
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人　むきばんだ応援団

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

むきばんだ応援団による遺跡の保存と活用
～ふるさとの宝を全国へ～

出典

令和３年度ふるさとづくり大賞事例集



ふるさとづくり大賞 ―団体表彰―

むきばんだ応援団による遺跡の保存と活用
～ふるさとの宝を全国へ～

特定非営利活動法人　むきばんだ応援団



取組の概要

鳥取県米子市と大山町にまたがる妻木晩田遺跡は、152ha に及ぶ広大な弥生遺跡で、現在は史跡公園として公開されている。1999 年２月、開発事業で破壊の危機に瀕していた妻木晩田遺跡の保存を求めて、地元市民、支援する各地の関係者によりむきばんだ応援団を結成。同年４月に遺跡の保存決定後は、遺跡の魅力を発信するため、様々な活動に取り組んでいる。月に一度開催している市民講座「むきばんだやよい塾」は、史跡公園のボランティアガイドの研修講座となっており、2005 年に開始した遺跡周辺の植物観察を行う「むきばんだを歩く会」は遺跡の魅力発信に貢献している。2020 年からは WEB サイト「全国子ども考古学教室」を立ち上げ、全国各地の小学生がふるさとの遺跡を見直すための貴重な教材となっている。

取組のプロセス

1997年～　きっかけ
リゾート開発にともなう発掘調査で妻木晩田遺跡が発見され、保存運動が始まる

・全国から大きな関心を呼び、地元でも遺跡の価値を見直す動き

1999年～　むきばんだ応援団発足　妻木晩田遺跡の保存が決定

・ボランティアガイド研修として、鳥取県からやよい塾へ助成

・ボランティアガイド養成講座「むきばんだやよい塾」開講
（塾長：金関恕・大阪府立弥生文化博物館館長）



2000年～　「妻木晩田ボランティアガイドの会」発足

・「むきばんだやよい塾」の受講生有志により発足

2001年～　山陰遺跡ネットワーク発足

・文化施設運営における行政と市民による協働の必要性

・山陰の史跡ボランティアの情報共有、交流の場であるネットワークを主催



2005年～　植物観察イベント「むきばんだを歩く会」開始

・県（史跡公園）から植物カレンダー等制作への助成

・史跡公園内の植物を観察しながら歩く活動
・植物を紹介するプレートや、「花カルタ」を制作



2018年～　サントリー地域文化賞受賞

・遺跡の保存の重要性を全国に発信する必要がある

・遺跡の保存活動や啓発普及活動を多くの市民や地域住民が担っていることが評価された



2020年～　WEB サイト「全国子ども考古学教室」スタート

・朝日新聞文化財団から WEB サイト作成助成

・全国の考古学関係者の協力のもと、小学生が手軽にふるさとの遺跡について触れることができる WEB サイトの制作・運営

今後の展望

- **妻木晩田遺跡をはじめ地元の古代文化を全国へ発信拡大。**
- **全国の子どもたちの歴史学習・ふるさと意識の高揚へ寄与。**

DATA

事例名：『遺跡の保存と活用　～ふるさとの宝を全国へ～』
　　特定非営利活動法人　むきばんだ応援団
所在地：鳥取県米子市新開２丁目 3-10（本の学校２階市民サロン内）
連絡先：TEL　080-1915-6664
　　FAX 0859-31-2931
　　E-mail　mukibanda.ouendan@gmail.com

